

# 仏の十大弟子 神通第一 目連

今月に入り、新型コロナウイルス感染症のPCR検査で陽性と判定された方が全国的に増え、「第二波では」と危惧されています。

テレビで見るかぎり、マスクもせず夜の街に出かけている人のなんと多いことか。感染者に占める割合は二十代・三十代の若い人が半数を超えているようです。「若いから自分は大丈夫」という過信があるのでしょうか、或いは長期の自粛に不満があつて憂さ晴らしをしているのでしょうか、もう少し不要不急の外出を控えてほしいですね。

さて、今月は仏の十大弟子の中「モツガラナ」（写真）を紹介します。「モツガラナの子供」という意味でモツガラナと言いい、その音写が「目連」です。「偉大な」という冠をつけて「マハー・モツガラナ」（大

目健連）とも言われます。幼名はコーリタと言いました。私は普通「目連尊者」と呼んでいます。

目連尊者で有名なのは、今、日本で欠かすことのできない宗教行事の一つである「お盆」にまつわるものです。

この宗教行事のルーツは『仏説盂蘭盆経』です。

このお経には、まず、目連尊者が神通力を發揮して死後の母親の存在を調べ、餓鬼道に母親がおちたことを知ったことが説かれます。そして、



つものです。目連尊者の一番優れた「神通力」をお釈迦さまが讃えられて「神通第一」という冠がつけられたのでしよう。先月号で紹介した舍利弗と目連尊者は少年時代からの親友として一緒に成長しました。二人は祭りの喧騒に無常を感じて一緒に出家します。最初はサンジャヤという師の弟子になり、やがて師と同じ境地に達しますが、心の平安を得ることができませんでした。真の師に出会うことができた。真の師に出会うことができたら一緒に弟子になると誓った二人は仏弟子の一人アツサジ（正語）を縁としてお釈迦さまの弟子になりました。入滅は二人ともお釈迦さまより先だったようです。最初に目連尊者が瀕死の重傷を負って入滅の覚悟をしたようです。舍利弗は仏弟子になったのが一緒なら入滅も一緒にとお釈迦さまの許可を得て、二人はそれぞれの出身地で最後の説法をした後、入滅したとされています。（写真は本願寺新報から転載）

# 法語の世界

《原文》

大坂殿にておのおのへ対せられ仰せられ候ふ。このあひだ申ししことは、『安心決定鈔』のかたはしを仰せられ候ふよしに候ふ。しかれば、当流の義は『安心決定鈔』の義、いよいよ肝要なりと仰せられ候ふと云々。

〔蓮如上人御一代記聞書〕二百五十一

《現代語訳》

大坂の御坊で、蓮如上人は集まっていた人々に対し、「先日、わたしが話したことは『安心決定鈔』のほんの一部である。浄土真宗のみ教えでは、この『安心決定鈔』に説かれていることが、きわめて大切なのである」と仰せになりました。

六月十五日、宮崎教区八十六カ寺の懇志二百万円を持ち、宮崎教区選出の僧侶宗会議員大河内隆之師と宮崎教区会議長福永充証師、吉川孝介宮崎教務所長が西本願寺を訪れ、石上智康総長と武田昭英本山執行長に宗派と本山へと、それぞれ百万円ずつ進納しました。新型コロナウイルス感染症の影響で財政的に厳しい宗派と本山の運営の助力になればとの思いでの行動になりました。七月一日付本願寺新報に記事が掲載（左）されましたので紹介します。

## 宮崎教区が懇志200万 コロナで厳しい財政の本山、宗派に届ける



「全寺院の愛山護法のご懇念」  
として宗派の役に立たないや法費、初教が中止に  
いて、同教区職員からいただきました。大切に  
が教区内に懇志を納め、わたしたちが  
呼びかけた各寺と協賛して、  
新が同じく、宗派で二行と懇談、うなづいて  
200万円が集まりました。本願寺に  
た、本山、宗派にそれぞれ、  
それぞれ100万円の懇志、区でもコロナ禍で  
を進納した。

宮崎教区の大内隆之師が、石上智康総長と武田昭英本山執行長に、それぞれ100万円の懇志を納め、宗派と本山に届ける。この懇志は、宮崎教区選出の僧侶宗会議員大河内隆之師と宮崎教区会議長福永充証師、吉川孝介宮崎教務所長が西本願寺を訪れ、石上智康総長と武田昭英本山執行長に宗派と本山へと、それぞれ百万円ずつ進納しました。新型コロナウイルス感染症の影響で財政的に厳しい宗派と本山の運営の助力になればとの思いでの行動になりました。七月一日付本願寺新報に記事が掲載（左）されましたので紹介します。